

2023年度 入学試験問題

国語

①

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 問題は、問題一から問題三までです（1頁～14頁）。
4. 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入してください。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

五

五

**問題一** 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

先日、友人と会話していたとき、「コロナのパンデミックが始まってから時間の感覚が変わった」という話になつた。「まだ2年もたっていないのに、永遠のように感じる」と彼は言つた。それは、私の実感もある。

私たちの時間感覚が変わったという事実は、神経科学の知見とも整合性がある。何か新しく予期せぬことが起こると、人間の脳は情報処理のプロセスを調整して、一定の物理的な時間の中により多くの主観的時間を詰め込む。そのようにして、入力する感覚データをさらに詳細に解析する。パンデミックによって、私たちは人生の不確実性やリスクを鋭敏に自覚するようになつた。その結果、好むと好まざるとにかくかわらず、より強烈に時間を感じるようになつたのである。

時間感覚の変化は、ストレスを感じやすいことも意味する。実際、このパンデミックの間、私たちは以前のように人に会えなくなつた。海外旅行はほとんど不可能になつた。厳密なソーシャルディスタンスのルールにより、夕方にビールやお酒を飲みながら談笑するといふことは、違ひ昔のファンタジーのようになつてしまつた。忍耐力や強靭さがテストされる時代になり、日本人はその試験にうまく合格したようだ。私たちは自身がどう考えるかは別として、世界の他の文化に比べれば確かにそうである。

パンデミックによつて、<sup>A</sup>世界各地の文化のユニークな特性が照射された。「偉大なる孤独」の時代に、そのような事態が逆説的に進行したのである。自省する時間ができるにつれ、一人一人、そして一つ一つの国の真の性格が明らかになつた。

東京オリンピックやパラリンピックをどのように運営すべきか、そもそも開催すべきなのかということについて激しい議論があつた。読者は、オリンピックの開会式に至る日々の不安、フラストレーション、その一方での希望や期待を覚えているだろう。私たちはなんとかくぐり抜け、歴史がつくられた。

一般に、日本人は、外国人の人たちが日本人を見るよりも自分たちに確信がない傾向がある。地球という舞台において、日本人はこれまでそうであつたよりも自信を持つてよいように思われる。オリンピックやパラリンピックに関してもそうである。

大会が終わつて何週間かの間に、私は海外の人たちとオンラインで話す機会があつた。余つた時間の中で、東京オリンピックやパラリンピック

クについても雑談した。彼らは一様に、地球規模の難しい時期にホストを務めるという重責を日本がうまくこなしたこととを称賛していた。一人の女性は、自国のアスリートが活躍するのを見て眠れない夜を過ごしたと笑顔で言つた。もう一人の人にとっては、これまで最も素晴らしいオリンピックになつたということだつた。

I □、いまだに大会について論争があり、割り切れなさを抱いている人がいることは承知している。一方で、もうリラックスして、よくやつたと自分たちを褒めていい時期なのかもと思う。私たちは確かに完璧ではないが、実際私たちはかなりうまくやつたのだ。

この島国の長い歴史を振り返ると、自然災害や人によつてもたらされた災禍があつた。地震や津波、台風、火山の噴火、大火、そして戦争が私たちの祖先の共通経験だつた。このような試練を通して、日本人は強靭さと忍耐の文化を育んだ。

II □、共同体の絆は日本では他の国に比べて強い傾向がある。自分を制御する感覚も他の文化に比べて日本では発達している。そこに私たちの強さがあるのだろう。

ソーシャルメディアでの書き込みを見ると、<sup>C</sup>このような美德は失われつつあるよう思うかもしれない。III □、日本人のモラルが長期にわたつて低下しているというのは、恐らく幻想だ。もしどらわれない公平な比較をするならば、日本人は困難なときにおいて、世界の他の場所に比べてより柔軟で強靭であるということが分かるはずだ。このような平均的日本人の性質は、自然災害や人工的な災禍に長い間さらされることによつて発達してきた。

今は比較的孤立した時期であり、外国からの訪問客は減り、外国に観光に出掛ける人もほとんどいないが、だからこそ私たちは魂の探求の内なる旅に出掛けるべきなのだろう。経済のグローバル化は恐らくは進み続ける。パンデミックが終われば、地球規模の偉大なるコミュニケーション、交換、そして関与のゲームが再び始まるだろう。そのときが来れば、私たちは徹底した自己観察と自省を経て、課題に向き合う準備がさらにできていることだろう。

D パンデミックの数年前、私の大切な友人オスカーが桜の季節にイギリスから日本を訪れたときのことを覚えている。上野公園に出掛け、きちんと楽しく花見をした。オスカーはいまだにあのときは楽しかつたと書いてくる。ドイツから研究仲間のアンナが来て、研究室で議論したこともあつた。夕方になつて居酒屋に一緒に行つた。居酒屋にいるのが会社の同僚たちだと知つたときのアンナの驚きは興味深かつた。ドイツでは同じ会社で働く者は昇進を競うライバルなので、嘆きや弱みをそのように共有することは考えられないと言つてゐる。

E パンデミックの前の穏やかで静かな日々を思い出すと、そこに日本文化の強さや美しさがあると氣付かされる。全てが終われば、新たに見いだされた強さに基づいてより良い未来をつくれるだろう。このパンデミックの雲の中にも、希望の光がある。その後には、きっと虹も出るだろう。

(茂木健一郎「その後には、きっと虹も出るだろう。」より)

注1 コロナのパンデミック 新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行すること。なお、本文および設問文における「コロナ」とは全て新型コロナウイルスのこと。

問一 空欄  I  III に当てはまる適語を、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を一度使うことはできません。

ア しかし イ 確かに ウ 例えば エ つまり

問二 波線部i～iiiの語句の本文における意味として最も適当なものを、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。

- i 「ファンタジー」………… ア 実在しないもの イ 稚拙なもの ウ 難解なもの エ 単純なもの
- ii 「逆説的に進行した」…… ア 世界中の人々の予想以上に、コロナによる悪影響が広がつていった  
イ 世界中の人々が孤立化に向かう中で各国の特性が明らかになつてきた  
ウ 世界中の人々が疑心暗鬼になつた現在では、国際交流が難しくなつた
- iii 「リラックスして」……… ア 相手を威圧したりせず  
イ 周囲の雰囲気に緊張せず  
ウ 間違うことを恐れず  
エ 批判的な側面ばかり捉えず

問三 傍線部A「私たちの時間感覚が変わった」とあるが、筆者の考え方の説明として最も適当なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 自分の感覚的な要素を強く意識することで、不確実な生活や自身の恐怖心などと共に現状の時間の流れを強く感じるようになったということ。
- イ ストレスを強く感じるようになったことで、自分の将来に対する不安などストレスの原因を追究しようとする意識が強くなつたということ。
- ウ コロナ以前の生活を懐かしく思うことが強くなつたことで、コロナ前の生活と今の生活を比較することが多くなつてきたということ。
- エ 将来に対する不安が強く感じられるようになったことで、自暴自棄な考え方や生活に流れてしまふ人たちが増えてしまったということ。

問四 傍線部B「世界各地の文化のユニークな特性が照射された」と同じ内容になる表現を本文中より一〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問五 傍線部C「」のようないい徳」とはどのようなことを表しているのか、最も適当な表現を本文中より五字程度で抜き出しなさい。

問六 傍線部D「パンデミックの数年前」以降の例は筆者の論を進める上でどのような意図があると考えられるか、その説明として最も適当なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

- ア コロナの影響を受ける以前の日本の様子を示すことで、以前から日本の文化や生活が世界的にも優れたものだったと印象付けようとしている。

- イ コロナの影響を受ける以前の日本の様子を示すことで、早くコロナ以降の新たな生活様式を構築していくことの必要性を理解させようとしている。

- ウ コロナの影響を受ける以前の日本の様子を示すことで、どれだけコロナ以前の生活が豊かで幸せな日々だったかを思い出させようとしている。

問七 次の会話は、本文全体の内容を踏まえて傍線部E「きっと虹も出るだろう」という筆者の表現について話し合っているものです。会話の内容と本文全体の内容を踏まえて、生徒Cの（X）に当てはまる適当な表現を五〇字以内で述べなさい。

生徒A 「虹」ってすぐに消えてしまう**儚い**イメージだな。

生徒B そのイメージはここでは合わない気がするよ。

生徒C そうだね。この傍線部の直前に「希望の光」というのもあるし、もう少し前には「より良い未来」とあるから、この部分に注目して「虹」を解釈したいね。

先生 その考え方も大切だね。更に言えば、単に「虹」だけに注目せず文全体、つまり「きっと虹も出るだろう」の「も」に注目すると解釈はどんな風に広がるかな？

生徒A 傍線部の直前の「その後には」が私は気になるな。

生徒B 「このパンデミックの雲の中にも、希望の光がある」のところにも「も」が出て来るね。

生徒C 「雲の中にも、希望の光がある」ってまるで今の私たちの日常みたいな感じがするな。

先生 どういうことかな？

生徒C コロナウイルス感染症の蔓延から、（X）気がするんです。それをこの表現から感じました。

生徒B そうして、きっといつかは以前のような日常が戻つてくるということかな。

生徒A でも、その日常は虹がもつ儘さと同じで、いつまたバランスを失うかわからないというのは行き過ぎた想像かな？

先生 面白いんじゃないかな。これから私たちの生活は少しづつだけど以前のような状態を取り戻しつつあるし、いつか戻つてくるかもしれない。でもそれは決まりきった日常ではなく、いつどうなるかわからない危うさも含んでいるということだね。

**問題二** 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

### 【文章I】

動作のコツは、一度習得したらそれで終わりということはない。I、適切な動作を遂行する指標となっていた動作のコツも、様々な理由でそれまで適用していた通りに動感を導くことができなくなることがあるからである。<sup>注1</sup> 結城氏は、動作の狂いについて次のように述べている。

先ほど言つたようにわざが狂うのですね。怪我をしたというのはマイナスの狂いですが、身体が強くなつたときも狂うのです。おかしなことに選手は毎年身体を強くしようとします。II、これは当たり前のことなのです。ということは、わざがどんどん狂っていくのですね。

ときに動作の感覚は、筋力トレーニングなどの結果としても狂いが生じるほど繊細なものである。トレーニングだけではなく、フォームの変更、疲労の蓄積、III けがなどの理由から、選手は動作を再構築することが求められることがある。<sup>注2</sup> 結城氏は、骨折後に動作の感覚を再度感じ取り、新しい動作を習得した経験を次のように振り返る。

ですから、骨折する前は一〇秒〇八が最高だったのですが、その後また一〇秒〇一の自己ベストを出すまでは、違う過程で強くなつていつたわけです。「中略」やはり徐々に自分で開拓しながら、感覚は身につけていかなくてはならないものだと思います。

骨折前と骨折後に動作を構築する過程は異なつたものであつたという発言からは、朝原氏がすぐに以前の感覚を取り戻したわけではなく、一度動感へ回帰した上で動作を習得したことを意味している。<sup>A</sup>こうした動作の再構築は、競技生活を続いている過程で、場合によつては指導者になつてからも続していく。

感覚は大切にしていましたが、ただ、自分の感覚がすべて正しいとは限らないです。意外にも、いい記録が出たとき、結果が出たときのほうが正しいに決まっていますので、それに従います。

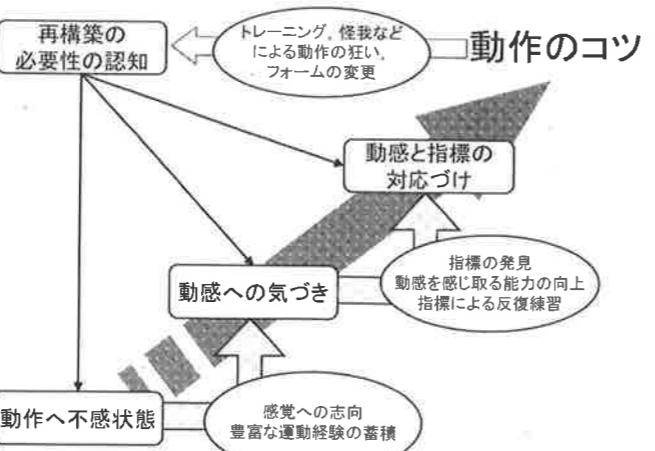


図1 動作のコツ習得過程における選手の知的協力(永山・北村、2010を一部改変)

朝原氏のこの発話からは、感覚として絶対的なものはないという信念が見てとれる。こうした常に新しい感覚を追い求めようとする感覚への志向が動作のコツ習得過程における学びの原動力となり、さらに繊細な動感への気づきを感じ取れるよう選手を成長させることになる。

以上、動作のコツ習得過程について結城氏、朝原氏の発話をもとに検討してきた。分析の結果、動作のコツは、「動感への気づき」、「動感と指標の対応づけ」、及び「再構築の必要性の認知」の三つの過程を繰り返しながら動作のコツは習得され、<sup>ii</sup>洗練されていくことが明らかとなつた。上の図1は、動作のコツ習得過程について図示したものである。図中の右斜めへ伸びる大きな矢印は、動作のコツ習得に向けての方向性を示すものである。各過程間の矢印上にある橢円図形は、各過程における選手の知的協力を示している。各過程において橢円図形で示した知的協力を選手が行うことと、次の過程へと進み、動作のコツを習得することを表している。

まず、動作に対して不感状態にある選手は、結果だけではなく学びの過程における感覚へ意識を向けることで「動感への気づき」を得られるようになる。次に、指導者によって提示された「わざ言語」を指標として採用し、その指標と動感を対応づけて適切な動感を統合しながら探索することで選手は動作のコツを習得する。しかし、動作は一度動作のコツを習得して終わるものではない。けが、フォームの変更などの理由により、再度動感に意識を向けるところから、動作のコツを習得していくのである。

### 【文章II】

(「わざ言語」とは、ある技能の教授プロセスでしばしば用いられる独特の言語のことと、それは科学言語のようにある事柄を正確に記述、説明することを目的とするのではなく、相手に関連ある感覚や行動を生じさせたり、現に行われている活動の改善を促したりする時に用いられる言語のことです。)

清水選手の場合、オリンピックの金メダリストという競技実績から判断するのであれば、当時、世界で最も優れた選手であったと考えることができます。熟達の度合いが高まれば高まるほど、感覚は洗練されたものとなる一方で言語化することはよりいつそう困難になる。たとえ、他者にわかるように無理に言語化したとしても、自分にとって「うそ」の感覚であり、わざを狂わせてしまうことになりかねない。選手が熟達していく過程で、感覚を表現する言葉の選択は慎重なものになり、適切な言葉が見つかって初めて言葉として表現することが許される。選手の熟達度が高まると言語以外の方法で感覚を共有しようとする事も多くなる。しかし、熟達度が高まった中でも「わざ言語」は選手の学びに作用している。結城氏は、清水選手とのやりとりについて次のように述べている。

わざを習得していく中で、あるいはシリーズの前半では、清水選手との中でも、目指しているものを作り上げていく段階は必ずありました。「中略」その段階でいろいろやりとりをします。必要以上の言葉をしゃべらないで、会話になつてないような会話というのでしょうか。「今日、ちょっと、……だよね」、「明日はちょっと、こうだね」と。

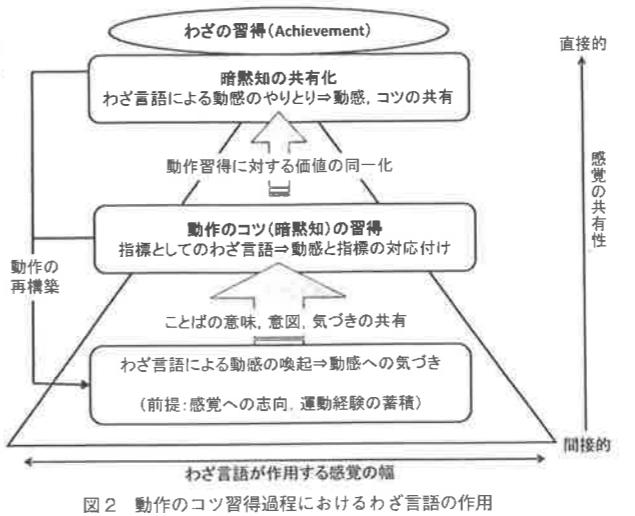


図2 動作のコツ習得過程におけるわざ言語の作用

この発話に見られる結城氏と清水選手のやりとりは、両者の間に感覚の共有を保証する関係性があるからこそ成立するものである。この場合の関係性が成立するための条件は、選手の熟達度が高いこと、指導者が指導者として熟達していること、そして両者の間にわざ習得に向けた価値が一致していることが必要とされる。このような直接的な感覚のやりとりは、通常の動作のコツ習得過程のサイクルとは異なる経過を辿るものであり、一定の熟達レベルに達した学習者のみが達する過程である。図2に示したように直接的な感覚のやりとりが「わざ言語」によって行われ、感覚の共有が達成される。ここで言う感覚の共有とは、選手と指導者が直接的に相手の感覚を感じ取ることができる状態を意味する。いわば、より洗練された動作のコツ、あるいは暗黙知を習得するために、互いの感覚を感じ取りながらともに知的協力をしている状態である。この場合は、「わざ言語」は互いの感覚を感じ取るために利用され、両者以外には作用しない。仮に、他者に向けた言語化が行われるとそれは動作の感覚を狂わせることにつながる。その意味で、ここでの「わざ言語」は図2で示すように作用する感覚の幅は極めて狭いものになる。ここでの感覚の直接的なやりとりを通して、選手は、わざを習得した状態、つまりTaskの学びとは異なる

Achievement の学びに至ることになる。初学者に対する「わざ言語」が幅広く動作の感覚に作用するのに対し、熟達者の場合、「わざ言語」を通した相互作用が非常に閉じた関係の中で行われるため、図2では三角形の頂点に感覚の共有が置かれている。

(永山貴洋「スポーツ領域における暗黙知習得過程に対する『わざ言語』の有用性」生田久美子他『わざ言語』より)

注1 結城氏……結城匡啓（ゆうきまさひろ）。信州大学教授。スピードスケートのコーチを務め、清水宏保、小平奈緒選手などを指導した。

注2 朝原氏……朝原宣治（あさはらのぶはる）。陸上競技の元選手で、専門種目は短距離走、走り幅跳び。北京オリンピック4×100

メートルリレー、銀メダリスト。

問一 空欄 I II III に当てはまる適語を、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

問一 波線部 i、ii の語句の本文における意味として最も適当なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

ア そして イ ですか ウ でも エ なぜなら

- i 「指標」……ア 目標 イ 目印 ウ 評価 エ 方向
- ii 「洗練」……ア 記録より、美しさで評価されるものにする」と

イ あることについて、はじめて経験すること

ウ ある考えを吹き込んで、思想を改造すること

エ みがきのかかった、よりよいものにすること

問三 傍線部 A 「こうした動作の再構築」が必要な理由を、以下の文を完成させて答えなさい。ただし、空欄は【文章 I】の語を使いながら四字以内でまとめること。

運動選手の動作の感覺は、 なので、そのつど動作を再構築する必要があるから。

問四 傍線部 B 「感覺を言葉にするな」とあるが、なぜ「感覺を言葉に」してはいけないのか。その理由として最も適当な一文を、次の「清水選手の場合、」と始まる段落から抜き出し、最初の五字で答えなさい。

問五 傍線部 C 「両者の間に感覺の共有を保証する関係性がある」とあるが、それは選手と指導者の関係がどういう状態であるとか、傍線部 C 以降の本文から適当な部分を六〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問六 傍線部 D 「Achievement の学び」とはどういう意味か、最も適当なものをア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 「わざ言語」が幅広く動作の感覺に作用する、初学者に対する学び。
- イ 学びの過程における感覺へ意識を向けることで得られる、動感の学び。
- ウ 「わざ言語」が選手と指導者の関係の中だけで作用する、熟達者の学び。

- エ 熟達度の高い選手と指導者の間で行われる、明快な言葉で整理された学び。

問七 ①図1、②図2の説明として最も適当なものを、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。

①図1

- ア 選手が動作のコツを習得するために、どのようなステップが必要なのか、わかりやすく図示されている。
- イ 選手が動作のコツを習得した後にも、わざが狂うたびに動作の感覺を再構築する過程が示されている。
- ウ 選手が動作のコツを習得することで、記録や成績を伸ばして成長していく過程が明確に区分されている。

②図2

- ア 感覚の共有性が直接的になると、わざ言語がシンプルなものになり、多くの選手や指導者に通じることが示されている。
- イ わざ言語が作用する感覺の幅が狭くなると、理解できる選手や指導者も少なくなり有効性が薄れていくことが示されている。
- ウ わざ言語の習得に至るには多くの段階があり、選手と指導者との間の暗黙知による信頼関係が必須であることが示されている。
- エ 選手の熟達度が高くなると、指導者との感覺の共有が直接的になり、言葉による共有の幅が狭くなることが示されている。

問一 次のI～IVの傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

I その相関関係には科学的根キヨがない

A 日本代表の監督のキヨ就に注目が集まる

イ 公共の場での勝手な行動はキヨ容できない

ウ 伝統的な学説に依キヨして新説を否定する

エ 成功しても謙キヨさを失つてはいけない

II 規制はユルやかに解除した方がいい

ア 生き生きとしたイメージをカン起させる

イ 彼は終始一カンした態度を保つてゐる

ウ 失敗した者に対してもカン容な態度で接する

エ カン急を自在に楽器を操つて演奏する

シヨ民のささやかな願いがかなえられた

ア 会社のシヨ務課に勤務する

イ パソコンをシヨ期設定に戻す

ウ 各地の名シヨを訪れる

エ 社長の秘シヨになつた

IV 時代サク誤な考え方によらわれてゐる

ア 以前から自動化運転を模サクしていた

イ 多くの人のさまざまな思惑が交サクする

ウ 地主のサク取に苦しむ農民が一揆を起こす

エ 普遍性を獲得したものが傑サクとなる

問二 次のI～IIIの傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

I 学生時代は知識を貪欲に吸収した

II 彼は台詞を覚えるのが早くて正確だ

III 二人の見知らぬ人が罵りあつていた

問三 次のI～IIIの傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

I お金をイツカツして支払つた

II 詳しいことまでジユクチしている

III 可能性をセバめてはいけない

二〇一三年度 入学試験問題解答用紙

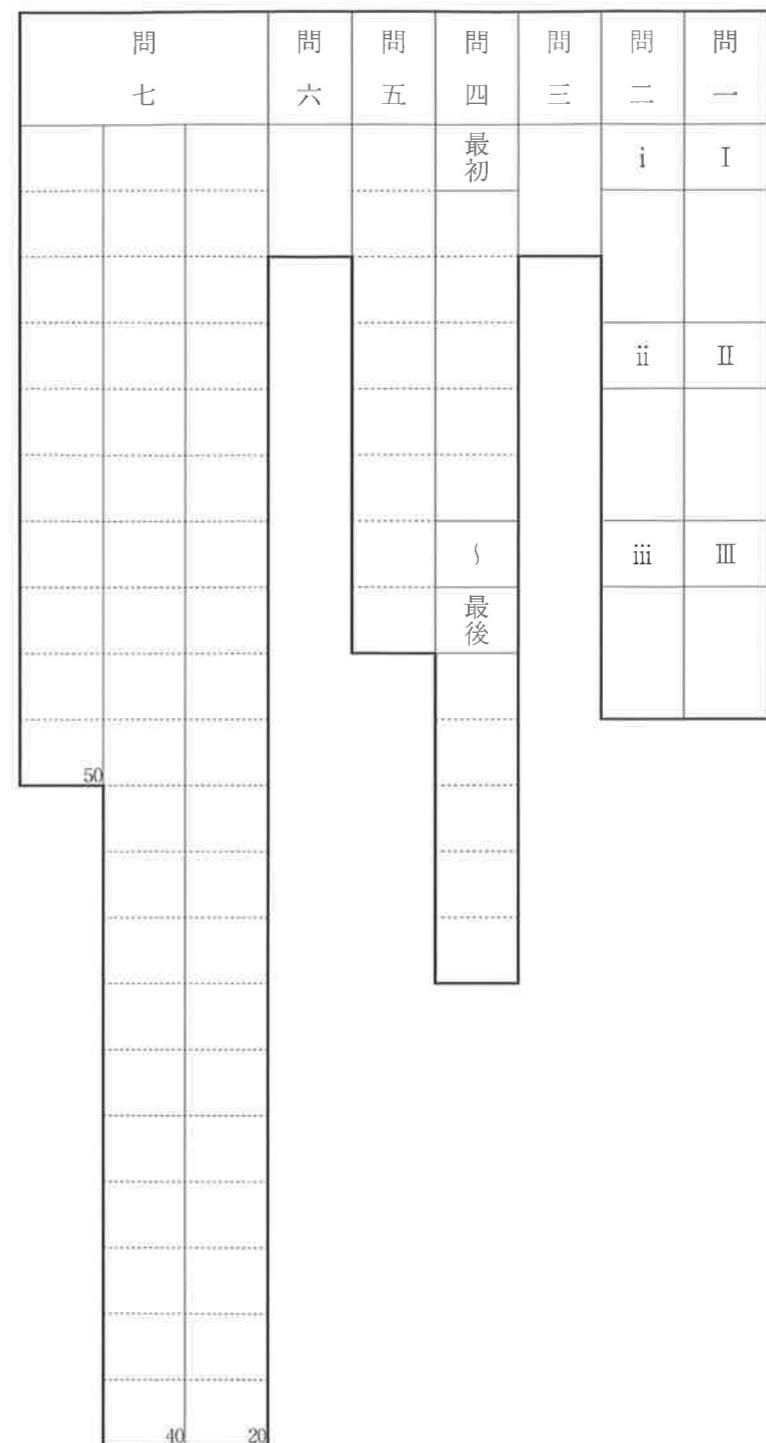
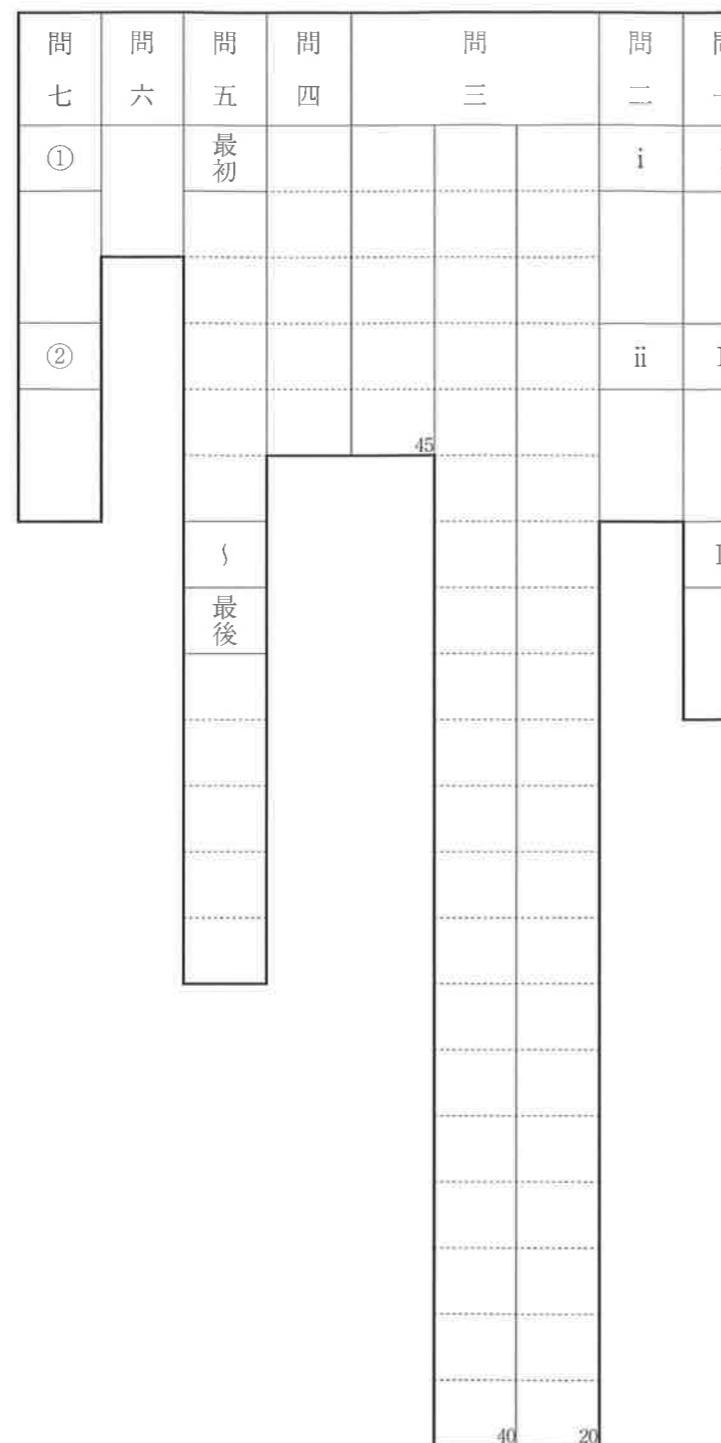
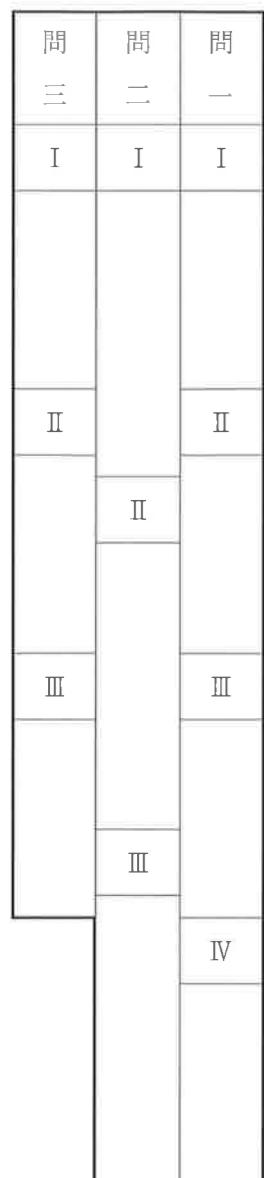
五

語

問題

問題二

### 問題三



学 科 名	受 驗 番 号	氏 名	總 点